能登の魅力を広めよう

団体名●のとプロ（石川ゼミナール）／代表者名●藤沢美菜子（経済学部経済学科３年）

はじめに（背景・目的・目標）

私たちのとプロは、能登の魅力を広めたいという熱い気持ちを持った1人の学生に賛同して発足した団体である。そして、過疎化や担い手不足などの課題を抱えている能登地域において、能登の魅力を探り発信することで、能登地域に関心を持ってもらいたいというメンバー全員の意思から活動を行うに至った。本団体は、2023年5月に立ち上げた。最終的な目標は、持続的に販売される商品を開発し、能登地域外の人々に魅力を知ってもらうことである。そのために、私たちと同じく能登の魅力発信を目的としているNPO法人「チーム能登喰いしん坊」の協力を得ながら活動を始めた。

活動内容

半年間は、能登の魅力を深めるため、主に穴水町で開催されるイベントへの参加と商品開発の準備を実施した。協力団体によるキッチンカーやブースでの商品販売や設営等を通じて、地域の方々と交流することができ、メンバー全員が能登の魅力を体感することができた。

写真1：穴水町でのイベントサポート

商品開発では、アンケート調査と話し合いの結果、多数ある能登の食材から「かぶと味噌」に着目した。かぶと味噌を製造されている高尾商店様にコンタクトをとり、製造方法を学んだり味噌の試食を体験したりした。さらに商品化できた際には、自分達で企画・開催したイベントでその商品を販売するという目標を達成するため、能登の食品の仕入れから販売までを行うイベントを企画し、2024年1月中旬に金沢市内の商業施設にて開催する予定で活動していた。

しかし、令和6年能登半島地震が発生し、イベントの開催も商品開発に向けた活動も白紙状態にせざるを得なかった。一方で、本来イベントを実施する予定であった1月20日は、道の駅めぐみ白山様のご協力の下で募金活動を実施し、穴水町への寄付を募り、10万円を寄付することができた。

写真2：募金活動

成果、結果の考察

イベント企画や商品開発の過程では、能登地域の方々と私たちがやりたいことを共有し、話し合いや交流を重ねていく中で、まずは私たち自身が能登の魅力を深めることができた。募金活動では、石川県民にとって能登が愛されている地であることを再確認し、これからも能登地域のためにできる活動をしたい気持ちが高まった。団体としては、話し合いや活動を効率よく進めるため、メンバーへの思いやりや協調性が互いに身についた。また、話し合いでアイディアを出し合う場面で消極的だった当初に比べ、各自が意見を持ち、積極的に発言するように成長した。

今後の課題、展望

当初予定していたイベント開催・商品開発は、当面の間は保留としたい。一方で、これからは能登地域での復興支援活動を行いたいと考えており、災害派遣ボランティアへの参加や金沢市内での募金活動に加えて、金沢市内に避難している子ども向けのイベントの開催等を検討している。また、Instagram等を積極的に利用し、本団体の活動ならびに能登地域内外に対する能登の魅力の発信に力を入れたい。